

香川県三豊市（国内 8 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 11 月 21 日実施）

令和 2 年 11 月 21 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、5 例目、6 例目及びその疫学関連農場がある場所から約 400m 離れた丘陵地の中腹に位置し、それらをつなぐ一般道路があり、付近は雑木林に囲まれている。管理人によると、その一般道路は養鶏関係車両が頻繁に通過しているとのこと。
- ② 農場敷地の周囲に複数のため池があり、鶏舎から最も近いものまでの距離は約 150m であった。
- ③ 当該農場にはウィンドレス鶏舎が 4 棟の鶏舎があり、発生時すべての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。発生鶏舎は農場の最も入り口側に位置する鶏舎であった。

2 通報までの経緯

- ① 1 例目、4 例目及び 5 例目の発生に伴い実施した周辺農場検査において、陰性が確認されていた。
- ② 管理人によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、11 月以降 5~10 羽程度で推移していたところ、11 月 20 日午前中には鶏舎内で散らばって 8 羽の死亡が確認された。その日の午後、同一ケージで 2 羽の死亡が確認されたため、周辺のケージを確認したところ、さらに 6 羽の死亡鶏が確認されたことから家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 管理人によると、発生鶏舎の 11 月 20 日の死亡鶏は、4 列ある背中合わせの直立 6 段ケージの右 2 列の鶏舎奥に多く認められたとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では 7 名の従業員が専属で管理を行っており、このうち 3 名の従業員が主に鶏舎内の管理をしていた。毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏を回収して、農場内の死亡鶏処理装置で処理している。
- ② 従業員ごとに担当する鶏舎は決まっているが、担当の従業員が休みの日には別の従業員が代わりに作業を行っていた。
- ③ 管理人によると、従業員は農場専用の作業着と長靴を使用していた。また、鶏舎毎に踏み込み消毒槽の設置、手指消毒の実施に加え、県内での高病原性鳥インフルエンザ発生後には、鶏舎毎に専用の靴を設置していたとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② 飼養鶏への給与水は、井戸水がいったん農場内の密閉された貯水槽に貯蔵され、パイプによって各鶏舎に供給されている。
- ③ 鶏舎からの鶏糞の排出口は蓋で塞がれていた。一方、鶏舎から排出された鶏糞の処理施設には防鳥ネットが設置されていなかった。
- ④ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑤ 管理人によると、農場敷地内の消石灰散布による消毒は農場入り口部分のみであったとのこと。
- ⑥ 管理人によると、車両が当該農場に出入りする際、農場の入口に設置された動力噴霧器により消毒しているとのこと。

- ⑦ 発生鶏舎の鶏舎構造は、片側の壁面に設置された換気扇から排気し、反対側の壁面に設置されたフィルターから入気するタイプの鶏舎であった。換気扇の外側には開閉可能な板が設置されており、換気扇が停止する際にはこの板が閉まるが、一部完全に閉鎖されない箇所があった。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 管理人によると、農場内では野犬やアオサギが確認されることがあるとのこと。なお、現地調査時にはカラスが確認された。
- ② 発生鶏舎では、鶏舎から集卵ベルトが外へ出る開口部に隙間があったほか、鶏舎の壁に隙間が確認されており、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。
- ③ 管理人によると、発生鶏舎内でネズミを見かけることがあり、定期的にネズミ対策（殺鼠剤の設置）を行っているが、5例目の防疫措置開始後、鶏舎内でネズミを見かける頻度が上がったとのこと。現地調査時には、発生鶏舎内にネズミのものと思われる小動物の糞やネズミによるものと思われる齧り痕、他の鶏舎内ではネズミの死体が確認された。